

平成27年度 第5回東部地区幼稚園教員・保育士等の合同研修会

「豊かな創造性を育む表現活動のあり方」

日時：平成27年9月3日(木) 場所：福祉人材研修センター

【研修講師】 美作大学短期大学部 准教授 中田 稔 氏

【ねらい】

講義や実技研修を通して、子どもたちの豊かな創造性を育むための教師の援助や環境の構成の工夫について学ぶ。



【研修の様子】

★講義

1 創造とは

豊かな創造性を育むために・・・一番大切なのは「感性」

「感性」を育むための4つの「り」

- ・かかわり・・・おもしろそう、やってみたい
- ・こだわり・・・こうしたいな
- ・思いやり・・・(相手意識)みて、みて
- ・ゆとり・・・どれにしようかな 選択するゆとり



2 遊びの楽しさ

- ①何かになったり、何かに見立てたりする楽しさ
- ②繰り返すことの楽しさ
- ③探索したり、発見したりする楽しさ
- ④人と関わり、ともに活動する楽しさ

3 表現のあり方

「つくる」から「つくりだす」へ
「つくるもの」から「つくること」へ



表現の多様性を大切に
→表現したもの(作品)ではなく遊びの中で楽しみながら表現していること(過程)を重視する。
そのためには素材をしっかり吟味すること

★演習 「遊びの楽しさを取り入れた造形活動」 様々な表現活動を体験

- 動きを何かに見立てることをきっかけにした造形活動
- 繰り返しのあるお話の読み聞かせをきっかけにした造形活動
- 新しい書き方を発見したり、自分なりの表現を工夫したりする造形活動
- 人と関わり、ともに活動する楽しさを味わう表現活動

どの活動も皆さん真剣！
夢中になって取り組んで
おられました。

「人と関わり」の活動では・・・



色画用紙を自由にちぎって養生シートにセロテープで貼っていく。

シートをひっくり返して机に固定し、色画用紙の形から想像を膨らませ、自由に絵を描いていく。(油性マジック、クレヨン、シール)

壁や窓ガラスに貼って、みんなで鑑賞会。



【参加者の感想】

- 子どもたちの様々な発想、多様な表現を引き出せるような保育を行っていきたいと思った。
- 表現活動という身構えてしまったり、よい作品をつくらなければと思ったりしがちだったが、今日の研修を通して楽しんで取り組めることが一番で、保育者が主導するのではなく、しっかり準備をしておき、子どもの自由な表現を引き出していくことが大切であると学んだ。自分自身も楽しかった。
- 「つくる」活動から「つくりだす」活動への言葉の通り、すぐに作品に結びつけるのではなく、遊びを通して楽しむ中でつくり出していき保育をめざしたい。
- 自分一人で作品を作るよりも、周りの人たちとの関わりの中で制作する方が、自分の表現や気持ちを認められて心地よかった。また、周りの人の作品に互いに付け加えたりすることでつながりが生まれ、より楽しく感じた。



遊びを通した
楽しい表現活動
に取り組んでい
きましょう。

